

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	■妊娠期の方へ拠点の周知を行うため、区と連携して母子健康手帳交付時のチラシ配布や近隣の産科医療機関への周知活動を引き続き実施する。 ■外国籍の方に対して情報が行き渡っているか、来館しやすい状況であるか、関係機関・団体と連携して把握し、来館につなげる取り組みを行う。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

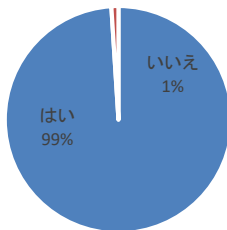
■年間利用者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総利用者数人 (1日平均)	13,603人 (56.2人)	14,399人 (59.5人)	17,140人 (70.8人)
父親	483人	679人	866人
プレママ・プレパパ	138人	215人	238人

■新規登録者数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
乳幼児	455人	532人	565人
プレママ・プレパパ	44人	71人	75人

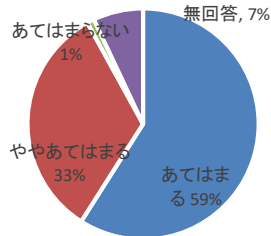
■交流プログラム実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
0ちゃんベビー集まれ	7回132組266名	10回184組373名	10回249組478名
1才チビちゃん集合	7回86組175名	10回139組280名	10回173組346名
集まれにこりんキッズ	9回96組207名	10回100組250名	10回100組215名

〈令和5年度 利用者アンケート:令和6年度1月~2月 拠点内で実施 95部配布 95部

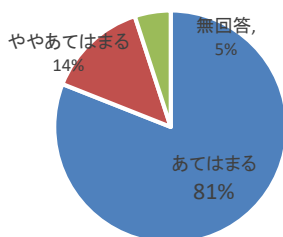
■初めてでも訪れやすい雰囲気はありますか。



■にこりんくを利用してあなたの子育てに変化はありました



■にこりんくは安心・安全に過ごせる場所(環境・衛生面等)になっていますか。



**1【利用者を暖かく迎え入れる工夫】**

- ・来館者を笑顔で温かく出迎え、穏やかな声掛けを行い、話しやすい雰囲気作りを心がけている。ひろばで感じた子どもの変化や成長の様子を伝え、共に共有し喜びあえる関係づくりに努めている。
- ・ひろばでは同じ地域の養育者や月齢が近い養育者、同じ悩みを抱える養育者等を必要に応じて繋ぎ、養育者同士交流が図られるよう心がけた。
- ・新規利用者や久しぶりの来館者には、名札シールの色を変え、配慮しやすいよう工夫している。スタッフだけでなく、先輩利用者も色の違うシールを見ることで声をかけやすくなり、ひろば全体で新規利用者や久しぶりの来館者を迎え入れる雰囲気づくりを行った。
- ・コロナが第五類へ変更となったが、アルコール消毒等の感染症対策を徹底している。利用方法(開館時間、人数制限等)を検討し、人数制限をなくしても引き続き安心安全に利用できるよう取り組んだ。
- ・年齢別交流や異年齢交流等多彩なプログラムを行うことで、養育者同士の交流を深めるきっかけとなり、育児の孤独感や育児不安の軽減に繋がられるよう努めた。

**2【多様な親子が安心して過ごせる場】**

■妊娠期の支援

- ・沐浴体験のニーズが増えたことで妊娠期向けのプログラムの定員を増やし実施した。沐浴や妊婦体験、先輩家族の体験談を聞く等の内容で出産後の生活のイメージを持ち不安軽減につなげられるよう努めた。
- ・毎月、プログラムの定員以上の申込があり、個別対応を行った。
- ・妊娠期から拠点の事業について周知できたことがきっかけとなり、出産前から保育・教育コンサルジュ相談や子育てサポートシステム入会説明会への参加があり、出産後の来館に繋がった。

■父親支援

- ・土曜日を中心にファミリー参加型や父親参加型のプログラムを行い、父親の来館が増え、父親同士交流する姿が多く見られるようになった。育児の情報交換が行われ、日常的な関わりに繋がることができた。
- ・奇数月の土曜日、午前に父親と子ども限定「パパりんくの日」を設定し、父親来館のきっかけとなり、その後の来館に繋がったり、父親同士、顔の見える関係が作られている。父親が1人で子どもを連れて出かけることへの不安軽減にも繋がったという声もあった。

■発達が気になる子、特性がある子の支援(作業療法士と共に)

- ・発達がゆっくりな子や集団遊びが苦手な子を対象に少人数で親子の関わりをもつプログラムを行い、発達に不安を抱える養育者も安心して参加ができ、継続的な見守りに繋がっている。
- ・特性のある子や特性を気にして来館しづらい養育者に向けて、2階のフリースペースに毎月ひろばを作り、ゆっくり自由に過ごせる場を提供した。継続的な参加があり、相談の場にもなっている。
- ・プログラムに作業療法士が入ることで、養育者に対して専門的な目線でのアドバイスができた。

■外国籍の親子支援

- ・外国籍の方も拠点を安心して利用できるよう、ホームページのEnglishページの見直しやにこりんくパンフレットの英語版を作成した。また、外国の方向けの情報をファイルにまとめ、提供しやすいように工夫している。
- ・国際交流の施設(あーすぶらざ)や地域の外国籍親子を支援する活動団体に見学に行き、関わり方のアドバイス等情報収集を行った。そこで得た日本語教室の情報等を外国籍の養育者に提供できた。
- ・外国籍の養育者から来館についての問い合わせがあった時は、英語の得意なスタッフが対応したり、他のスタッフも翻訳機やスマホの翻訳機能を使い、易しい日本語で話す等の工夫をして、安心して過ごせるよう配慮した。
- ・英語が得意な養育者にサポートをお願いしてコミュニケーション作りを図ることもあった。
- ・外国籍の親子の利用が増えたことから、令和6年度に交流プログラムを実施した。外国籍養育者同士が情報収集について互いに補いあえるようSNSのグループができた。そこに英語サポートの利用者ボランティアも参加し、スタッフからの情報提供の橋渡しができた。

■地域の講師を招いてプログラムを行う

- ・毎月、地域の講師を招いてプログラムを行っている。親子ヨガ・ベビーマッサージ・運動あそび(栄スポーツセンターのインストラクター) 五感で遊ぼう・みんなでストレッチ(理学療法士)・作業療法士とあそぼう!(作業療法士)

■地域ボランティアの関わり

- ・ちくちくボランティア(裁縫によるおもちゃ作り)、おもちゃ病院、にんじんクラブ(読み聞かせ)、地域の演奏家のミニコンサート、ひろば預かりの提供会員活動等

■その他

- ・日頃から双子の来館が増えている。「ふたごみつごの会」年2回実施。
- ・養育者からのニーズを受けて、「20代ママの会」や「2人目3人目育児中のママあつまれ」を実施。

**3【養育者のニーズの把握】**

- ・スタッフが日々養育者の声やニーズを聞き取り、各自で相談票に記入し、朝と帰りのミーティングで共有し、ひろばの運営やプログラムの企画に反映させている。
- ・利用者アンケートやプログラム終了後のアンケート、ひろばやホームページに設置した意見箱に届けられた意見等から、利用者の声を把握することができた。意見が寄せられた際は、即時改善策を検討し、利用者の思いに寄り添った拠点作りに努めている。
- ・養育者と子どもの現状から把握したニーズに沿って、養育者の求めるプログラムを新たに行った。
- ・拠点から遠く利用が困難な養育者のために、出張ひろばを企画して地域に出向いた。地域ケアプラザやサロンと連携しその後のひろばへの来館に繋がった。
- ・日々の相談から多く聞かれるニーズに対しては、専門家を招き相談や講座(歯のはなし、栄養のはなし、言葉の発達等)を行い、養育者の不安軽減に繋がるよう努めた。
- ・日頃から父親の来館が増えた為、各プログラムについて以前のチラシや対応を見直し、父親も参加しやすい環境作りに努めた。新たな父親の参加に繋がった。

**4【親と子が育つ場】**

- ・遊びを通して他児との関わりを見守り、スタッフが感じた子どもの良い所や成長の変化を養育者に伝えることで、養育者が子どもの成長に目を向けられるよう寄り添った支援を行っている。
- ・子ども同士でトラブルが発生した際には、他児との関わりや声かけが不安な養育者に対して、スタッフが間に入って対応の見本を示したり、時には黙って見守る事の大切さ等を伝え、状況に応じた子どもとの関わり方を養育者と共に考えられるようにした。
- ・子育てをスタートした0才親子向けの支援は開設当初から大切に行ってきた。アイタッチやふれあいの大切さを伝え、その後も月齢や年齢にあわせた遊びや関わりを紹介し、自宅でも繰り返し行えるよう簡単な遊びを伝えた。
- ・養育者がボランティアとしてひろばの活動に参加したり、養育者自身がプログラムを企画・実施する等、様々な形で養育者が主体的に活動できる場を設けた。

**評価の理由(区)**

**①【利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている】**

- ・個別に区民に周知を行う際は、養育者のニーズに合わせた拠点の情報を提供している。
- ・毎月の定例会に担当係長、保健師が出席し、地区支援で聞いた利用後の感想を定例会で共有し、改善策と一緒に検討している。
- ・感染予防対策、避難訓練のやり方については定例会で一緒に確認をした。共通点のある利用者を集めたプログラムについて、運営に関する相談に応じている。

**②【多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている】**

- ・区民が妊娠期より拠点を身近に感じてもらうための「Welcome!プレママ・プレパパday」の運営に関する相談に応じた。
- ・母子保健コーディネーターとの連携が密になってきており、母子手帳面接や電話対応時にこりんくを手厚く周知し、連携を図っている。
- ・発達課題のある児や養育者、外国人など、母子手帳面接で把握した子育て世代の特徴を共有している。区の心理士が拠点を訪問しており、発達相談への敷居を下げる一助となっている。

**③【養育者と子どものニーズ把握の場になっている】**

- ・利用者に関する気づきについて定例会で共有してもらい、利用者の困り感を一緒に整理している。
- ・必要なプログラムや相談、区の事業につなげられるよう、アプローチの方法を検討している。
- ・アウトリーチで把握したニーズをもとに、区役所主催の育児教室を新規開催することとなった。

**④養育者自身が学ぶための講習などの運営について相談に応じており、適宜助言を行っている。**

**拠点事業としての成果と課題**

**(成果)**

- ・区と連携し妊娠期向けのプログラムを定期的に行う事で妊娠期の利用が増え、利用が拡大している。
- ・出産前から拠点とつながりを持つことができ、継続的な見守りにつながった。また日常的なプログラムの参加や出産後のスムーズな来館に繋げることができた。
- ・区と連携して区内の外国籍親子の情報収集を行い、交流プログラム実施に向けて検討したことで、早期実施に繋がった。
- ・父親向けのプログラムを充実したことで、父親の来館が増えた。ひろばでの交流では、寝かしつけの方法や、生活リズムについて等日常的に交流がみられるようになった。毎月のプログラムにも父親の参加が増えた。
- ・発達が気になる子、特性がある子に向けて少人数のプログラムを実施した、その後の利用にもつながっている。

**(課題)**

- ・平日の父親(平日休み・育児休暇中)向けのイベントが少ない。
- ・20代の養育者向けのプログラムがない為、今後検討していく。
- ・外国人向けプログラム、個別対応の充実。
- ・発達課題のある子が、より参加しやすくなるための居場所事業の検討。

## 様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

## 2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	■相談内容の複雑化・多様化が顕著であり、全てのスタッフが適切な対応を取れるよう、相談技術の向上を目指す。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

### 評価の理由(法人)

(主なデータ)

■相談件数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	914件	917件	878件

※内容は生活習慣40%、親自身20%、発育発達10%となっている。

■専門相談	令和3年度	令和4年度	令和5年度
助産師	174件	161件	151件
保育教育 コンシェルジュ	30	29	19
理学療法士	35	38	36
作業療法士	—	—	74

※令和5年度から作業療法士、心理士と連携を始めた。

■令和5年度 専門相談員を交えた 講座(対象:0才~未就 学児と養育者)	管理栄養士(離乳食・幼児食)、歯科医師・歯科衛生士(歯の話)、よこはま港南療育センター ソーシャルワーカー(療育センターについて、言葉の発達とコミュニケーション)、幼児安全法 指導員(乳幼児救急救命法)、消防署(事故予防・救急予防講座)、栄警察署(事故予防、不 信者対応)、マザーズハローワーク横浜(子育て中の母親対象のセミナー)、キャリアカウンセ ラー(キャリアカウンセリング)
---	--

■令和5年度 スタッフ研修	○個人情報保護法 ○記録について ○障害児保育研修 ○栄養の話 ○防災 ○横浜市地域子 育て支援拠点実践者研修 ○横浜市地域子育て支援実績者研修 ○子どもたちの現状~チャイル ドラインへかけてくる子どもたちの声をとおして~ ○ヤングケアラーを取りまく社会課題~私 たちにできること~ ○子どもの人権 虐待対応研修 ○プレママプレパパ対応講座 ○子育 て応援サイト研修 ○絵本の楽しさ ○外国につながる就学前の子どもと親の支援に関する情報 交換会 ○心肺蘇生法 異物除去法 ○区内の子育て支援の場との連携について ○保育の中で 気になる子どもの具体的ななかかわり・支援について ○傾聴について
------------------	---

〈令和5年度 利用者アンケート:令和6年度1月~2月 拠点内で実施 95部配布 95部回収〉

■子育てで困った事や気になる事をスタッフに気軽に相談できますか(件数)

あてはまる	ややあてはまる	どちらかというと あてはまらない	無回答
49	38	2	6

## 1【安心して来館し相談ができる場の提供】

- ・スタッフが養育者と共に遊びを通して子どもの成長や変化を見守り、子どもの育ちを共有することで安心して相談できる関係を築けるよう努めた。相談を受けた後も継続的に見守りを行い、養育者にとって相談しやすい雰囲気作りを行った。
- ・新規来館者には丁寧な説明を行い、再来館に繋がるよう努めた。また拠点が気軽に相談できる場所であること、専門家相談や子育てパートナーによる相談室・電話・オンライン相談が可能であることを伝えた。
- ・ひろばのスタッフは養育者からの相談やつぶやきを毎日相談票に記入し、その内容は朝・夕のミーティングで共有し、状況や対応について考える機会を作った。
- ・配慮が必要な利用者や特性がある子が来館した際は、状況に合わせた環境整備を行い、スタッフで共通理解のもとスタッフ全体でサポートできるよう努め、継続的な見守りに繋げることができた。

## 2-①【相談内容に応じた専門的な相談日の工夫】

- ・ひろばで受けた相談は必要に応じて専門相談を紹介し、つなげた。
- ・専門職(助産師、理学療法士、保育・教育コンサルジュ、心理士)による相談日を定期的に設け、養育者の不安軽減に繋げたり、作業療法士が関わるプログラムを設けることで養育者からの多様なニーズに対応した。
- ・養育者の共通の悩み(栄養・食事や歯磨きについて、事故予防、防災対策、言葉の発達に関すること等)については専門職を招いて講座を開き、不安軽減に努めた。

## 2-②【利用者支援事業との連携】

- ・スタッフがひろばで受けた相談について、養育者自身での課題解決が困難な場合は、必要に応じて子育てパートナーにつなげ、細かなニーズに応えられるようにした。
- ・子育てパートナーとスタッフ間で必要に応じて情報共有を行うことで、温かく見守れる環境づくりに努めた。
- ・季節的に話題にあがりそうな事(汗の対策、日焼けについて等)や生活習慣(離乳食について等)について、子育てパートナーが研修等で得た最新情報を定期的にまとめて朝のミーティング時にスタッフに伝え、利用者にも周知した方が良いと思われる事(関わりで大切な事、遊びの発達、スマホとのつきあい方等)については、ひろばに掲示して啓発に努めた。

## 2-③【区や各関係機関との連携】

- ・ニーズの多い離乳食や歯の話、発達、就園等の相談は、区に依頼し、専門的な講座を行うことで養育者の不安軽減に努めている。(管理栄養士、歯科衛生士、心理士、保育教育コンサルジュ)
- ・歯の話については地域の歯科医師とも連携して講座を行った。
- ・相談内容に応じ、緊急な対応が必要な場合等は施設長や子育てパートナーが速やかに判断し 区と連携して対応を行っている。
- ・その他、学齢期に関する相談(特性のある子の入学に関する事、小学校生活の困り事等は、こども家庭支援センターにじに繋いで不安軽減に努めた。
- ・区と連携して妊娠期向けプログラムを行った。妊娠期から拠点が相談できる場であることを伝え、出産後の来館や相談に繋がった。

## 評価の理由(区)

### ①【養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている】

- ・区民に対し、気軽に相談できるという地域子育て支援拠点の特徴について説明し、母子保健事業や地区支援のなかで利用を促している。

### ②【相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている】

- ・相談内容について定例会の他、必要に応じ共有し、継続支援の必要な利用者について、支援方法を検討している。
- ・地域子育て支援拠点からのアプローチを一緒に考えている。
- ・支援方法の検討を通して、区で受けられる相談について地域子育て支援拠点に伝え、次の相談業務に活かしてもらっている。また、発達相談のニーズが多いことから、区の心理士が月1回拠点に訪問し、対応方法等を直接心理士と相談できる機会となっている。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果)

- ・来館者には丁寧な声かけと傾聴を行い、子どもの成長を共に見守ることを続ける中で相談しやすい関係作りができた。
- ・妊娠期対象や0才児対象のプログラムを充実させ、養育者同士を繋げたり、スタッフ自ら子どもとのふれあいの大切さを伝える遊びのプログラムを企画・運営し、日頃から身近な存在として、養育者に寄り添った支援を行えた。
- ・区や地域との連携で、専門家(助産師、管理栄養士、心理士、保育教育コンサルジュ、歯科医師、歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、療育センターソーシャルワーカー)と連携し、相談や講座を行って養育者の不安軽減に繋げた。
- ・子育てパートナーと連携し、カンファレンスや支援の方法を共有することで、チームで養育者をサポートしていくことができた。
- ・区と拠点の役割を明確にして連携を取り合うことで、支援が必要な養育者を関係機関に繋げることができた。
- ・スタッフの資質向上のため、積極的に研修を受け、相談対応やプログラム運営に活かすことができた。

### (課題)

- ・養育者への見守りや関わり・傾聴についての基礎的な力をつける必要あり。区と連携して研修の機会を検討していく。

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	■各種情報を更に分かりやすく提供できるようにホームページの内容の充実を図るとともに、スマートフォン専用ページの作成等についても併せて検討する。	A	B
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B

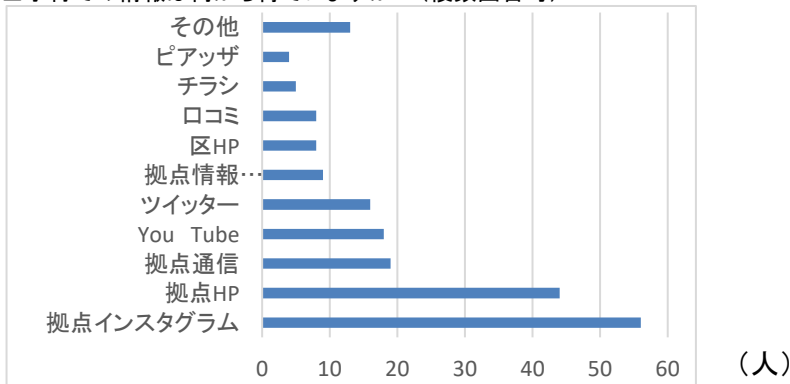
評価の理由(法人)

(主なデータ)

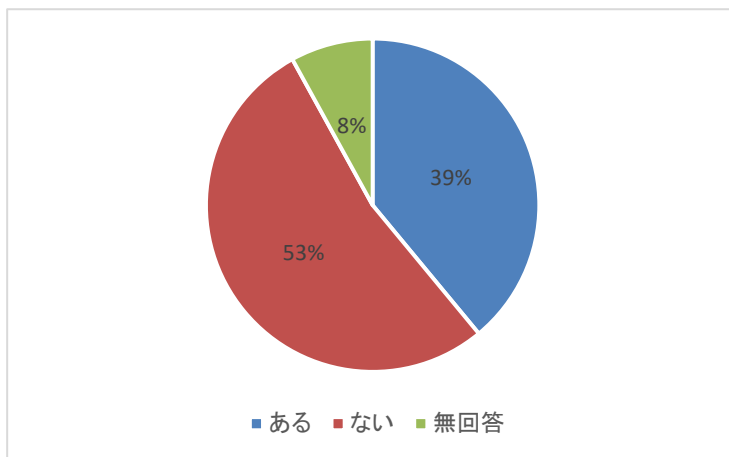
紙媒体 ・にこりんく通信…毎月900部を市内区内の市民利用施設に発送  
 ・広報よこはま栄区版…毎月にこりんくの枠でプログラム等周知  
 ・地域情報紙「タウンニュース」、よこはまダディ、町内会回覧板・掲示板  
 WEB ・ホームページ随時更新(スマートフォン対応済み) ・Instagramでの情報発信開始(令和3年1月～)  
 ・よこはまダディ ・ピアッツァ(地域SNSアプリ)  
 養育者から入園や未就園児情報提供の希望が多くあるため、幼稚園情報ファイルを作成してニーズに合わせた情報提供

〈令和5年度 利用者アンケート:令和6年度1月～2月 拠点内で実施 95部配布 95部回収〉

■子育ての情報は何かから得ていますか？(複数回答可)



■にこりんくの利用を通して、他の子育て施設(サロン等)の利用につながった事がありますか？



■Instagram更新回数

令和3年度	令和4年度	令和5年度
27件	183件	197件

※令和3年度:1~3月



<p><b>1【ネットワークを活用して最新の情報を収集、SNS等様々な媒体を使って発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援団体連絡会の事務局として定期的に連絡会を開催。区内56団体が集まり情報交換を行い、最新情報をタイムリーに収集することができている。4年度から団体間で施設見学会を行い、より顔の見える関係作りができるようになった。</li> <li>・各種会議(さかえっ子の笑顔ひろげ隊・子育て支援者連絡会等)に出席し、子育て家庭に関する情報を収集。スタッフ間で共有すると共に必要に応じて、情報提供を行っている。</li> <li>・幼稚園・保育園に拠点周知、情報提供の依頼を行ったことで、養育者からのニーズが多い未就園児のイベントや園庭解放等の情報が定期的に届けられている。情報コーナーに掲示するとともに、情報をファイルにまとめ提供している。</li> <li>・拠点のホームページでは、コロナ5類移行後、活動状況が変わったサロン等の情報を最新のものに更新。区内で新しくできた居場所やサロン等の情報は、新たにホームページに掲載すると共に、実際訪問しインスタ等でも情報発信を行った。</li> <li>・区内の病院で拠点パンフレット・通信を配架し周知。新規来館につながっている。</li> <li>・インスタグラムやホームページでは、プログラムの報告や活動報告をタイムリーに掲載している。</li> </ul> <p><b>2【養育者や担い手に情報の集約・提供の拠点である事を周知】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点に来づらい養育者にも伝わるようホームページや広報こはま栄区版等、様々な媒体を利用して拠点の機能を周知している。</li> <li>・外国籍の養育者に向けて、より身近な情報を提供できるよう区内で行われている外国籍の方を対象とした日本語教室や居場所等の情報を収集した。ファイルにまとめいつでも情報提供できるようにしている。</li> <li>・区と連携し、区の実施する母子保健事業(地域育児教室・ハピママサロン等)で拠点周知を行っている。未来館の乳児養育者も安心して拠点に来館できるきっかけとなっている。</li> <li>・サロン等から参加者が集まりにくいとの相談を受けた場合は、拠点で周知できることを伝え、拠点のSNSで周知を行っている。また、保育園や親と子のつどいのひろば等が来館し、昼の会で周知を行っている。</li> <li>・拠点ホームページを年度内に改訂予定。区内の子育て支援施設等の情報を、見やすく分かりやすく提供できるよう努めている。</li> </ul> <p><b>3【養育者や担い手が拠点の情報収集、発信に積極的に関わる事ができる仕組みづくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が普段使っているサロンの情報を直接持ち込み、情報コーナーに配架したことから、サロンスタッフと連携がとれ、情報交換や互いに通信を送りあうつながりができている。</li> <li>・利用者発信プログラムとして、「2人目3人目育児中のママさんあつまれ！」や「20代ママ集まれ」等を行った。リーダーの養育者自らポスターを作成し、それを情報コーナーに掲示したり、昼や帰りの集いで利用者に直接周知を行った。無事に開催できるようスタッフによるサポートができている。</li> <li>・情報コーナーを整理し、親と子のつどいの広場、拠点、区内情報・市内・県内情報、子育てサポートシステム、子育てマップ、幼稚園・保育園情報のコーナーに分け、利用者が見やすく、情報を入手しやすいように工夫している。子育てマップは内容を見直し、見やすく分かりやすいものに改定を行っている。</li> <li>・子育て支援団体連絡会で情報収集・提供の機能について周知したことで、活動団体からの情報が定期的に届けられるようになった。</li> <li>・以前拠点を利用していた養育者から、企画・実施に関わったワークショップやイベントのチラシが届けられて、情報コーナーで配架・周知を行っている。</li> </ul>
<p><b>評価の理由(区)</b></p>
<p><b>①【区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供のできる機会の提案・調整を行うとともに、効果的な情報発信の方法等とともに検討した。また、保育コンシェルジュや心理士が拠点に出向き、保育情報や子どもの発達等の情報提供を行っている。</li> <li>・最新の情報更新を共有していく事が課題となっており、令和6年度に拠点ホームページを改修予定。</li> </ul> <p><b>②【子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て情報が拠点に集約されていることを母子健康手帳交付時及び地域育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問定例会、子育て支援者定例会、ハピママサロン等で周知している。</li> <li>・にこにこマップの作成にあたっては、こども家庭支援課を始めとした庁内の各職種が協力して更新した。</li> <li>・転入者に対しても、転入手続き時に拠点を周知する事で、来館に繋げ、そこから他の遊び場やサロンを知る機会となっている。</li> </ul> <p><b>③【拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育者や担い手に情報収集や発信を拠点が中心となって実施していることを随時伝えている。</li> </ul>

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・Instagram、ホームページでの情報発信を継続している。Instagramのフォロワー数も伸び、SNSを通して多くの人に拠点を知らせてもらえるようになった。地域のサロン等とも連携がとれ、拠点周知のみでなく地域の情報提供も行っている。
- ・外国籍養育者に向けた情報は市内のものが多かった為、より身近な区内の情報を収集し提供することができるようになった。外国籍向けの情報は一つのファイルにまとめひろばに配架したことで、誰でも気軽に見られるように、またスタッフもすぐ情報提供ができるようになった。
- ・子育て支援団体連絡会や各種会議の出席、保育園・幼稚園まわり等で、ネットワークが広がり、より多くの情報が定期的に届けられるようになった。地域のサロンや幼稚園のイベント紹介は養育者に喜ばれ、参加につながっている。

(課題)

- ・地域で活動する団体や幼稚園・保育園等から定期的に情報は届けられ情報の集約はできるようになっている。今後はそれらの情報を精査し、それぞれの情報に適した情報提供の方法を考え、拠点内外で発信していく方法を考える必要がある。
- ・拠点のホームページを改訂し、養育者がより見やすく、必要な情報を入手できるように改善していく。

**振り返りの視点**

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)									
		法人	区								
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	■子育て支援団体連絡会で把握した情報を地域全体で十分に共有しているとは言い難く、また支援対象の幅が乳幼児から青少年期へと広がっているため、連絡会の運営に関して再考の余地がある。	A	A								
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	B								
評価の理由(法人)											
<p>(主なデータ)</p> <p>&lt;各種会議への出席&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども安全対策分科会 ・栄区地域福祉保健推進会議 ・さかえっ子の笑顔ひろげ隊※1 ・子育て支援者連絡会</li> <li>・こんにちは赤ちゃん訪問員定例会 ・社会福祉協議会の専門機関部会合同会議</li> <li>・自立支援協議会(こども部会)・里親懇談会</li> <li>・区民利用施設交流会 ・豊田こどもネットワーク委員会 ・長尾台町内会総会 等</li> </ul> <p>&lt;事務局の運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援団体連絡会※2</li> </ul> <p>【※1】さかえっ子の笑顔ひろげ隊：地域に向けて「子育て世帯を温かく見守る地域づくり」の啓発を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域における児童虐待防止の啓発</li> <li>②子育て相談先の周知</li> <li>③次世代(小・中・高等)が赤ちゃんと接する体験の場づくり</li> <li>④養育者に対する地域とのつながりをもつ大切さの周知</li> </ol> <p>【※2】子育て支援団体連絡会は拠点が事務局となり、地域で関わる人・関係同士の顔の見える関係づくりを目的とし、区内の子育て支援力の充実を目指している。下記 56団体が登録。</p> <p>(参加団体)・栄区こども家庭支援課 ・地域ケアプラザ ・主任児童委員 ・区社会福祉協議会 ・地域のサロン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親と子のつどいのひろば ・保育園 ・幼稚園 ・学齢期の支援団体 ・障がい児の支援団体</li> <li>・市民利用施設 等</li> </ul> <p>&lt;子育て支援に取り組む市民団体・機関との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄警察署 ・栄消防署 ・栄図書館 ・港南地域療育センター ・マザーズハローワーク</li> <li>・栄区民文化センターリリス ・男女共同参画センター ・栄区食生活改善推進委員会「ヘルスマイト」 等</li> </ul> <p>&lt;令和5年度 利用者アンケート:令和6年度1月~2月 拠点内で実施 95部配布 95部回収&gt;</p> <p>■にこりんくの利用を通して、他の子育て施設(サロン等)の利用につながった事はあるか。</p>											
<table border="1"> <caption>アンケート結果: にこりんくの利用を通して、他の子育て施設(サロン等)の利用につながった事はあるか。</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>				回答	割合	ある	39%	ない	53%	無回答	8%
回答	割合										
ある	39%										
ない	53%										
無回答	8%										

## 様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 1【区内関係機関におけるネットワークとの連携】

■各種会議に出席し、情報交換や拠点事業の周知を行った。その中で新たなネットワークを構築し、新規事業の企画・実施へと繋がった。

- ・桂山公園子どもログハウス「ロッキー」で定期的に出張あそびを行い、新たな養育者と出会う機会となった。
- ・栄区民文化センターリリスと連携し、乳幼児向けの事業について話し合い、子ども・こそだてアート&ミュージックキャラバン(栄区民文化センターリリス、ケアプラザ、さかえdeつながるアート、拠点による協働)の企画・実施となった。その際に拠点は相談窓口の役割を持ち、個別の相談対応を行った。
- ・横浜市スポーツ協会主催の未就学児向けの事業で、企画の段階から協力し、区内の保育団体等を紹介し、当日は、戸塚区の拠点と連携し、拠点の周知を行った。(はつらつキンダーフェスタ)
- ・拠点から遠い長尾台地域の乳幼児親子の居場所作りに協力し、地域に出向く機会を重ね(出張にこりんく@長尾台・公園遊び・出張子育て相談)、区とも連携してニーズを把握し、令和6年度からは毎月育児教室が開催される運びとなった。
- ・栄区社会福祉協議会、戸塚区社会福祉協議会主催のイベントで市民に向けて拠点事業の紹介を行った。(つながるフェスタ2023)、次回は栄区で実施の予定。

#### ■子育て支援団体連絡会の事務局

・連絡会を定期的開催。団体からのアンケートをもとにテーマ決めを行い、団体同士情報交換やグループワークで意見交換を行った。またスキルアップを目的に研修を実施し支援力の向上に努めた。新たな取り組みとして見学会を開催し、現場を見て養育者に最新の情報を届けられるようにした。

#### ■保育園・幼稚園との連携

- ・合同保育講座(あそびスイッチ):毎年、区内の保育園・幼稚園(一部)と連携して開催した。
- ・育児支援事業周知のため拠点へ来館:園庭開やランチ交流等の情報を昼前の集いで直接周知した。
- ・毎年、父親向けの遊びを保育園と連携し開催した。
- ・保育支援ネットワークが主催する研修に拠点職員が参加した。

#### ■市民利用施設と連携し、講座を開催した。

- ・地域ケアプラザとの連携:各地区の子育てに関するニーズ把握を行い、出張子育て講座を企画、実施した。
- ・栄警察署:「チャイルドシートの使用方法や自転車の交通ルールについて講座を開催した。
- ・栄消防署:「家庭内の事故予防について」講座を開催した。
- ・港南地域療育センターのソーシャルワーカーと連携し、ミニ講座を開催した。  
「療育センターってどんなところ」「言葉とコミュニケーションについて」

#### ■令和6年度新たに拠点から遠い別の地域(上郷地区)の乳幼児親子の居場所作りについて地域との連携を行う。

- ・上郷矢沢コミュニティハウス
- ・連合犬山会館

### 2【拠点利用者を地域へつないでいるか】

- ・ネットワークを活かして収集した各地域の情報を養育者のニーズに合わせて周知できた。収集した情報を活用して養育者に身近な地域のサロンや居場所、プログラム等を紹介した。
- ・養育者を身近な地域の支援の場に繋げるよう各地域に出向いて出張ひろばや子育て講座を開催した。養育者が新たな居場所を知るきっかけを作ること、その後もその場所を継続的に利用する機会となっている。
- ・公立保育園が定期的な手遊びや、読み聞かせをしに来館し、直接園の情報を発信することで、養育者が安心して園での地域交流に参加しやすいよう努めた。
- ・公園遊びに出向き、養育者が新しい地域を知る機会を作った。また拠点を利用したことがない養育者と出会い拠点周知を行い新規来館に繋がった。

### 評価の理由(区)

#### ①【地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している】

- ・子育て支援団体連絡会に参加する事で、地域で顔のみえる関係づくりをした。連絡会に参加した中で、地区活動の中で知った課題について共有することで、地域の子育て支援について考える機会を提供している。
- ・子育て支援者定例会等に拠点に出席して貰い、区全体の相談の状況について共有する機会を設けている。
- ・隣接区の子育てサロンと拠点がつながるよう、情報提供し、定例会にお呼びして意見を伺った。
- ・各種会議(支援者定例会、さかえっこの笑顔ひろげ隊、こんにちは赤ちゃん訪問定例会等)のメンバーに拠点を加えるよう調整するとともに継続的に参加できるよう後方支援を行っている。

#### ②【ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる】

- ・利用者を身近な地域の場につなげられるよう、随時拠点と区で地域の子育て情報を共有している。今後、地区担当保健師が地域活動の中で感じた気づきを共有し、地区特性に合わせた働きかけを行う必要がある。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問で拠点について情報提供して貰えるよう、訪問員に定例会で協力依頼した。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・各種会議や子育て支援団体連絡会で情報交換を行ったことで互いの活動を理解でき、新たに互いの活動場所の見学に繋がった。
- ・各団体から定期的に収集した新しい情報を、養育者のニーズに合わせて提供することができ、それにより、養育者を身近な地域の支援の場に繋げることができた。養育者自身が子育て支援の場を選択し、利用できている。
- ・区との定例会で、子育てや地域での現状について情報共有し、互いの強みを活かして事業の展開をすることができた。

(課題)

- ・地域別での意見交換の場が少ないため、子育て支援団体連絡会で地域別のニーズや課題を互いに知り、支援の方向性を確認し現場での活動につなげられるような機会を増やす。
- ・保育園と顔の見える関係ができたので、次のステップとして意見交換の場がもてるよう拠点として働きかける。

**振り返りの視点**

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	■現段階では地域に十分なサポートを提供できるだけの担い手数が確保されているとは言いがたいことから、引き続き担い手の発掘育成に向けての検討が必要である。 ■個人ボランティアのさらなる受け入れや活動の場の提供については他区の取り組みを参考に検討を行う。	B	B
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■学生ボランティア

令和3年度	令和4年度	令和5年度
47人	140人	60人

■利用者(パパ・ママ)ボランティア

令和3年度	令和4年度	令和5年度
36人	152人	139人

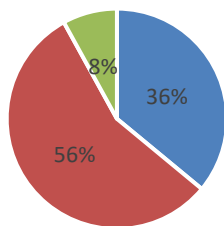
■シニアボランティア

令和3年度	令和4年度	令和5年度
88人	74人	97人

パパママボランティア(Welcome!プレママ、・プレパパDay、読み聞かせ、音楽ボラ、英語ボラ、製作ボラ)  
シニアボランティア(おもちゃ病院、ちくちくボランティア、読み聞かせ、Welcome!プレママ、・プレパパDay)

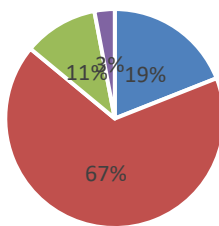
〈令和5年度 利用者アンケート:令和6年度1月~2月 拠点内で実施 95部配布 95部回収〉

■にこりんくの利用者の方がボランティアとしてにこりんくで活動できる事をご存じですか。(音楽・英語・読み聞かせ・製作等)



■知っている ■知らない ■無回答

■にこりんくでボランティア活動してみたいと思いますか。(音楽・英語・読み聞かせ・制作等)



■活動してみたい ■興味がない ■無回答 ■既に活動している

### 1【地域の担い手支援】

- ・子育て支援団体連絡会を定期的開催し情報交換会や講座(絵本の楽しさ・自分らしく～昭和脳をアップデート!!等)を開催。情報交換会では地域別に集まり、地域ごとの課題を共有するなど、団体同士のつながりを深める取り組みを行っている。また令和5年度は団体間で施設見学を行い、現場を見ることで生きた情報を収集し、利用者に提供できるようになった。施設間の見学は今後も継続予定。
- ・子育て支援団体連絡会の事務局として「子育て応援つながリスト」の更新・改訂を行い、より見やすいものに作り変えている。各団体が「子育て応援つながリスト」を活用し、活動の幅を広げられるよう取り組んでいる。
- ・長尾台に親子の居場所を作りたいという「けやきカフェ」のスタッフと連携し、サロンづくりのサポートを行う。犬山地域(犬山連合会館)でもサロンの周知に協力してほしいという話があり、今後連携していく予定。
- ・施設交流会で上郷矢沢コミュニティハウスの館長とつながり、共催で出張遊びを開催することとなった。
- ・地域で活動する支援者から運営内容や周知方法(パンフレット内容の見直し)等について相談にのっている。
- ・地域で活動している方や団体(読み聞かせ団体、音楽団体、おもちゃの修理団体等)の活動や発表する機会を設けた。また活動に対してアドバイス等求められた際には、意見交換を行い活動のヒントが得られるよう協力している。
- ・社会福祉協議会と連携し学生・地域ボランティア等の受け入れを行っている。また、令和6年度は区と連携し近隣の大学にボランティアの受け入れを周知している。
- ・拠点で活動しているちくちくボランティアの方に横浜子育てサポートシステムの説明を丁寧に行い提供会員登録、活動に繋がっている。

### 2【養育者の地域活動】

- ・地域で活動する支援者等を地域ケアプラザとの共催事業や親と子のつどいの広場、地域のイベント、子育て支援者の研修に講師を紹介した。
- ・外国籍の親子が来館した際は、英語が得意な養育者に通訳で間に入ってもらい活躍の場を提供した。令和6年度から開始した外国籍の親子を対象としたプログラムでも協力を依頼。交流を通して異文化の不安軽減の一助となっている。
- ・妊娠期のプログラムに先輩パパやママとして体験談や沐浴体験のサポートに参加してもらえる養育者を募り協力を得た。また妊娠プログラムに参加した夫婦がその後出産を経て、次は先輩としてこのプログラムに協力してもらえるような仕組み作りを行った。
- ・ママボランティアが積極的に考え実施できるようサポートし、当事者主体のプログラムを行った。(20代ママあつまれ、2人目3人目の育児中のママの集まれ等)
- ・「父親と子どもだけの時間を作りたい」という父親の意見から「パパりんくの日」を開催。発案者の父親と共に環境設定や内容を考え行った。父親同士のつながりが広がり、隔月での定期的開催につながっている。
- ・横浜子育てサポートシステムの新たな提供会員獲得に向けて、幼稚園入園が決まり、すきま時間が取れるようになる養育者に丁寧に子育てサポートシステムの説明を行い、安心して予定者研修が受けられるようにサポートした。

### 3【地域全体の雰囲気作り】

- ・さかえっ子の笑顔ひろげ隊の取り組みとして、区民まつりで拠点の周知と児童虐待防止のチラシを区民に配布、各種会議(豊田子どもネットワーク委員会・子育て支援者連絡会等)、横浜子育てサポートシステムの予定者研修で児童虐待防止に向けて地域での見守りの大切さを伝えた。
- ・こども安全対策分科会の取り組みとして安全・安心して過ごせる環境づくりを地域住民に対して啓発活動を行った。
  - ①乳幼児の事故予防のための「養育者への啓発」として事故予防クリアファイルを拠点で配布した。
  - ②パパりんくで、乳幼児が事故を起こしやすい状況・環境をクイズ形式で出題。ひろばでは、イラストを掲示し乳幼児の安全な環境づくりの大切さを伝えた。
  - ③パパりんくで、受動喫煙についてクイズで知ろうを行い、タバコの煙から子どもを守ることの大切さを父親に啓発した。
- ・子育て支援団体連絡会では地域ごとのニーズを共有した。今後は地域ごとで養育者のニーズや課題の理解を深め地域でできることを模索していけるよう努める。

### 4.【次世代育成】

- ・さかえっ子の笑顔ひろげ隊の取り組みとして、「いのちの授業」を開催。赤ちゃん人形を使った抱っこ、おむつ交換の体験を行うと共に、母親から子育ての体験談を聞くことで、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む取り組みを行った。命の大切さを伝え、自分自身も大切であることを知ってもらう機会となった。
- ・妊娠プログラムでは、沐浴体験、先輩ママ・パパから子育ての体験談を聞き産後のイメージをもつ機会となっている。プログラム終了後は、ひろばで赤ちゃんを抱っこしたり、利用者から出産準備や産後の日々の様子などを聞く等、参加者と利用者の交流を促している。ネットでは得られない生きた情報が、参加者の心に響き、夫婦で出産や子育てに向き合うきっかけとなっている。
- ・学生ボランティアの受け入れを行い乳幼児との触れ合いや養育者と接することで子と親の関わりに気づき、親への感謝や将来の子育てへの関心を持つよう働きかけている。
- ・青少年の地域活動拠点フレンズ☆SAKAEと連携し、拠点プログラムの見学や参加ができるよう環境設定をした。

**評価の理由(区)**

- ①【地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています】  
・各種会議(さかえっ子の笑顔ひろげ隊、支援者定例会、子育て支援団体連絡会等)のメンバーに拠点が参加できるよう調整するとともに、継続的に参加できるよう後方支援を行った。
- ②【養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。】  
・時代の流れとともに養育者の考え方も変わっていく中で、養育者に対して地域活動に参加してもらうための取り組みはできていない。
- ③【広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる】  
・拠点も一緒に活動している、さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動では、区民まつり等で区民を対象に児童虐待予防に関する啓発を行い、地域の見守りの大切さを区民に伝えた。
- ④【これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている】  
・さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動のなかで、中学生を対象に「いのちの授業」(新しいいのちの尊さ、自分や他者のいのちの大切さについて伝えることを目的に、妊娠期や乳児期の成長過程、乳幼児の育児を授業内容とした)を実施した。  
・コロナ禍になり、授業を一時中止していたが、令和3年度には授業の媒体としてDVDを作成し、令和4年度以降は授業を再開している。

**拠点事業としての成果と課題**

- (成果)
- ・コロナでできていなかった「いのちの授業」を再開した。オムツ替えや抱っここの模擬体験・育児中の母親から体験談を聞くことで、普段意識しない自身の誕生・成長してきた過程を思い出し、いのちの誕生・いのちの重みを感じる機会を作ることができた。
  - ・「拠点で父親と子どもだけの時間を作りたい」という父親からの発案で始まった「パパりんくの日」には多くの父親たちが参加している。父親同士のつながりが生まれると共に、父親と子どもだけの来館が日常でも見られるようになった。その他にも父親が講師となってミニ講座を開催する等、父親たちが特技をいかして活動する場を提供することができた。
  - ・子育て支援団体連絡会では、地域ごとにニーズの共有を行う機会を設けることができた。各自が活動する地域の課題やニーズを確認・共有することで、今後の活動意欲につながった。また、今後子育て支援団体連絡会として各地域でできることを模索し、活動に結び付けられるよう支援していく。
- (課題)
- ・地域活動に興味がある養育者を地域につなぐことができていない。拠点内でも地域活動につながるような情報の周知を行っておらず、今後どのような形で養育者と地域活動を結び付けていくか考える必要がある。
  - ・学生ボランティアの周知を区と共に始めた。今後も多くの学生に参加してもらえるよう呼びかけるとともに、受け入れ体制を整え充実した活動となるよう工夫していく。

**振り返りの視点**

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。



6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①横浜子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	■区全域で子育てサポートシステムの周知を行えるよう努めたが、提供会員の登録者は地域によって偏りがある。提供会員の少ない地域での出張説明会を積極的に実施し、提供会員の確保に努める。また、区の関係機関や団体、小学校に対して周知活動を行っている。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
令和3年度～令和5年度

■登録会員数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用会員	277	321	379
提供会員	56	59	67
両方会員	17	19	18
合計	350	399	464

■新規登録	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用会員	67	90	137
提供会員	6	7	15
両方会員	3	4	2
合計	76	101	154

■活動	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数	1,354	1,128	1,490

1【多くの区民が参画するための取組】

- ・保護者にあたる区民の参画を図るために、提供・両方会員周知を目的とした会員募集チラシを区内の小中学校にて児童・生徒に配布を依頼している。(小学校14校5,600部、中学校6校2,500部)
- ・事業説明と提供・両方会員確保のため主任児童委員や赤ちゃん訪問員の定例会等、地域で活動している区民の参画を図るため関係団体の会議にて周知をしている。
- ・区の母子保健コーディネーターから本事業の周知を行ってもらうことで、妊娠期の区民の入会説明会の参加へつながっている。
- ・地域ケアプラザと連携して、シニアボランティアポイント説明会時に制度説明や入会説明会の日程を伝え、シニア層の区民の参画を担うため周知を行っている。
- ・多くの区民の参画を担うための広報手段として、広報やホームページ、SNS(拠点インスタ、横浜市公式LINE、栄区公式旧Twitter)など様々な媒体に入会説明会や、横浜子育てサポートシステムのしくみを説明したチラシ等を掲載している。
- ・担い手になるシニア層の区民から拠点の場所がわからないとの声を受け、区役所で出張の入会説明会を実施し、シニア層が参画しやすい環境を整備している。その結果、提供会員の増加につながっている。
- ・提供会員の確保について多くの区民の参画を促すため、町内会の回覧等にて入会説明会のチラシを区連会を経由して配布している。
- ・多くの区民が利用する栄図書館で、パネル等を活用して事業説明や入会説明会の日程案内を周知していた。

2【養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となるための取組】

- ・養育者が参加しやすいよう、月ごとに開催曜日や時間帯を変えて入会説明会を実施している。
- ・入会説明会では、1回の定員を限定し、説明会後の個別対応の時間を確保している。定員を限定したため、実施回数を増やして対応している。
- ・早急の依頼を希望する養育者には、必要に応じ個別に入会説明を行い、至急の依頼に応じている。
- ・拠点スタッフと連携し、養育者の状況に合わせた利用方法を提案することで、本事業の利用へとつながっている。
- ・養育者が利用しやすくするため、利用会員からの依頼内容についてコーディネーター間で情報の共有・検討を行っている。また、配慮が必要な依頼については、必要時に応じて行政等の関係機関と共に連携して、養育者である利用会員が安心して利用できるような環境を整備している。
- ・事前打ち合わせでは、想定できる事柄(おもちゃ等の好みや抱っこの方法、泣いたときの対処法、万が一災害が発生した時など)、について養育者である利用会員とよく確認し、安心して安全な活動となるよう対応している。
- ・拠点スタッフと連携し、拠点の新規登録時や日頃の相談対応時に本事業の周知を行っている。利用に関心を示した養育者には改めて丁寧な対応を行い、入会説明会への参加やその後の利用につなげている。

**3【会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来るための取組】**

- ・活動報告書の提出時や電話での連絡の際など、提供・両方会員とコーディネーターが直接話す機会を持ち、活動状況の把握に努めている。また、必要に応じて利用会員と提供・両方会員の双方から丁寧な聞き取りを行い、活動を継続できるように両者の意思を確認しながら、コーディネーターが仲介やフォローを行っている。
- ・提供・両方会員が活動報告書が作成しやすいよう、紙の報告書作成希望の方には作成の記入例の用紙を準備し、電子の報告書作成を希望の方にはシステム操作方法の説明を随時行うことで、安心して活動に取り組んでもらう環境を整備している。
- ・初めて活動する提供・両方会員や、活動経験の少ない提供・両方会員には、まず拠点で行う入会説明会の保育を依頼し、活動に対する不安な気持ちを解消してもらっている。また、その事がこれからの活動への意欲につながっている。
- ・安心・安全な活動を行うため、提供・両方会員向けに研修や講習会を行っている(乳幼児救命救急法、月年齢別の絵本の選び方講座等)。
- ・全会員が、地域の支え合いを実感できるよう(年2回実施、実施内容:ストレッチ教室等)を開催し、リフレッシュしながら提供会員と利用会員が日頃の活動について意見交換を行っている。それぞれの会員同士が交流することで、活動の意義を理解し、信頼感へつながるよう工夫している。
- ・入会説明会にて、本事業の趣旨が”地域の支えあるによる活動”であることを伝えている。また、会員向け通信にも本事業の趣旨を繰り返し説明する文面を掲載している。

**4【養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげる取組】**

- ・養育者である利用会員からの相談を傾聴し、コーディネーター間で対応を検討している。聞き取りで得た情報は、必要に応じて拠点と共有し、サポートできる体制を構築している。また、子育てパートナーや関係機関と必要に応じて情報共有し、連携を図っている。
- ・養育者である利用会員からの相談内容に応じるため、地域情報を含む社会資源のファイルを作成して他機関等の情報を提供して必要な支援につなげている。地域情報については拠点と連携し情報共有・収集に努めている。
- ・養育者からの様々な相談内容に応じるため、関係機関(児童相談所、栄区役所、栄区基幹相談支援センター、栄区後見の支援室、児童家庭支援センターにじ等)に連携を目的とした事業説明を行っている。
- ・養育者である利用会員と関係性を深め、信頼関係を築けるよう日々のやり取りを大切にし利用会員の表面化していない悩みや課題を把握できるよう努めている。

**評価の理由(区)**

- ①【横浜子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている】
  - ・母子手帳交付時面接、母子訪問や乳幼児健診、地域育児教室等で養育者に子育てサポートシステムについて周知し、利用会員の増加につなげている。
  - ・提供会員が不足しているため、小学校や中学校に提供会員募集のチラシを配布し、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会や子育てボランティア定例会、主任児童委員、区PTA連絡会、幼稚園保育園園長会で提供会員募集の周知を行うための連絡、調整を行っている。
  - ・広く区民に周知するために広報よこはまに掲載している。
- ②【養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている】
  - ・利用者のニーズが多岐に渡るため、必ずしも充足できる事業となっていない。
- ③【会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている】
  - ・子育てサポートシステム提供会員に対して研修を行った。
- ④【養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている】
  - ・子育てサポートシステムを利用中で困難事例があった場合には対応方法や情報提供をしている。定例会で共有している。

**拠点事業としての成果と課題**

- (成果)
- ・区と連携して、区内の小中学校保護者や、各関係機関・団体で幅広く周知し、様々な区民の参画に繋がっている。
  - ・入会説明会や周知活動において、本事業の利用は理由を問わない旨周知し、リフレッシュや産前産後などの利用へつながっている。
  - ・提供会員の登録増に向けて、地域ケアプラザなどの公共施設や既存の子育てボランティア団体と連携周知活動に注力した結果、少しずつ成果が出始めてきた。
  - ・関係機関に事業説明を行ったことで、連携強化につながっている。
- (課題)
- ・本事業の趣旨である「地域の助け合い活動」や「有償のボランティアでの活動」を理解してもらうよう、入会説明会や会員向け通信で周知していく。
  - ・提供会員の高齢化により、退会、休止が増えている。また、提供・両方会員の就労状況や家庭の事情(PTA活動、親の介護や孫を預かる等)により、活動できる日にちや曜日・時間に制限があり、調整が難しい提供・両方会員が増えつつあるので、提供・両方会員の増加に向けて区民に周知していく。
  - ・拠点のネットワークを活用し、より効果的な周知方法を検討・実施し、提供・両方会員の確保に努めていく。
  - ・提供・両方会員登録数の地域格差解消のため、区役所にて入会説明会の実施や町内会の回覧等を活用した周知行う。

**振り返りの視点**

- ア 区民に対して、横浜子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていないか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報や会費が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 横浜子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていないか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	■拠点で相談ができることは認知されているが、横浜子育てパートナーの名称や電話相談の認知度が不十分であると考え。拠点に来館しなくても電話相談ができることを周知していく必要がある。 ■社会資源の幅広い情報収集や相談対応のための研修を受け、より質の高い相談対応を実践していく必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■事業の周知を行った回数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
周知(回)	83	68	87

※周知先:親と子のつどいの広場、幼稚園・保育園、両親教室、育児教室、各種会議・交流会(地域福祉推進会議、専門機関部会、里親懇談会、施設交流会、子育て支援団体連絡会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会等) Welcome! プレママ・プレパパDay

■相談件数(相談方法別)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
居場所	618	525	429
相談室	19	36	51
電話	17	38	28
出張	33	45	60
その他	17	29	58
計	699	673	626

※その他・・・発達がゆっくりな子や集団が苦手な子、特性がある子のプログラム「プチおやこあそび」、「のびしろクラブ」内の相談対応

※研修:個人情報保護、相談記録、発達が気になる子がいる集団での対応、発達障害児支援、相談における子パトの役割、言葉の発達を促す関わり方、自己肯定感の発達の 変化、昭和脳をアップデート、言語聴覚士による言葉の発達への取り組み、ASD・ADHDの支援対応、理解はあるが発語がない子の支援、小学校入学までにやっておくこと、イヤイヤ期、生活リズムと睡眠、トイレトレーニング、乳幼児の皮膚トラブル、メディアとのつきあい方、赤ちゃんへの声かけ、誤飲と窒息、地域でつながる子育て、虐待、妊娠期からの伴走型相談支援、忙しいママの自分時間の作り方、対人援助、等

■研修を受けた回数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
研修(回)	15	29	36

■令和5年度 利用者アンケート:令和6年1月~2月、拠点内で実施、95部配布95部回収

子育てパートナー(子育て期の困り事を伺い必要な情報等をお知らせします)をご存じですか (件数)

知っている	よく知らない	知らない	無回答
29	45	13	8

1【拠点内外で妊娠期からの養育者や子育て支援関係者に対する利用者支援事業の周知活動】

- ・拠点通信で毎月、子育てパートナーの相談窓口があることを掲載して周知した。(配布、SNS)
- ・利用者支援事業の情報を入れた名刺サイズのカードを作り、情報コーナーや授乳コーナー、トイレ等に置き、周知に努めた。区と連携し、区民祭り等、地域のイベントでも配布した。
- ・HP「相談したい方へ」やインスタグラムで、来館や電話・オンラインでの相談、メールでの相談予約、相談室でゆっくり相談ができることを周知した。
- ・子育て支援団体連絡会や地域の会議に出向き、子育て支援関係者及びそれ以外の関係者にも周知を行った。
- ・妊娠期対象の拠点プログラムや区役所の両親教室、各地域での育児教室、保育園・幼稚園への挨拶周り、親と子のつどいの広場への出張相談訪問、地域ケアプラザとの共催事業等で周知した。
- ・子育てサポートシステムと連携して出張説明会で出向いた先で周知依頼した。

## 様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 2【丁寧な個別相談による適切な支援】

- ・日頃から養育者と子どもの発達の様子を共有したり、生活習慣等身近な話題からの声かけに努め、信頼関係を築きながら困りごとが生じた時は真のニーズを引き出せるよう丁寧に対応していった。
- ・自力での解決が難しい時は区役所等関係機関と連携しつつ、継続的に関わり、養育者の気持ちへの寄り添いや情報提供を続けた。
- ・発達の相談では子どもの遊びの様子を継続的に見守りながら養育者の悩みや気づきに寄り添い、必要なタイミングで区の保健師や関係機関(栄区基幹相談支援センターやこども家庭支援センターにじ等)に繋がった。
- ・養育者が気軽に相談できる仕組み作り
  - ①相談から把握した養育者の共通の悩みやニーズに対して、プチおやこあそび(発達に気になる子、集団遊びが苦手な子を対象にした少人数の遊び)のプログラム、のびしろクラブ(発達ゆっくりさんや特性のある子と保護者のひろば)を継続的に行き、親子がゆったりと向き合せて過ごせる場所で悩みを傾聴し、その後の見守りや区への相談に繋がった。
  - ②オンライン予約で「和室でゆっくり相談」の相談枠を設け、大人数のひろばでは気づきにくかった養育者の悩みを知る機会ができた。養育者が溜まった思いを話せる場となり、その後の見守りや区への相談に繋がった。
- ・養育者が拠点を訪れたきっかけは別の目的(横浜子育てサポートシステム入会説明会、保育・教育コンシェルジュ・相談等)であったとしても、養育者の様子に気を配り、声かけに努め、必要時には相談室に誘い、ゆっくりと落ち着いた状態で話を聴けるよう環境を整え、養育者が困りごとを本音で話せるよう努めた。
- ・多様な相談に対応するため、積極的に各種の研修を受けたり、専門家による話を視聴し、最新の情報を得られるよう努め、相談対応に活かした。

### 3【拠点のネットワークを活かした連携による支援】

- ・拠点のネットワーク(子育て支援団体連絡会をはじめとする地域の支援機関との連携、各種会議への出席等)を活用し、地域の子育て支援関係者の活動や取り組みを理解し、養育者を身近な地域の社会資源(地域のひろば、園庭開放等)に繋がれたり、ニーズに合わせた情報提供を行った。
- ・区との連携やネットワーク会議等での繋がりから、サロンや市民利用施設との新たな連携が生まれ、サロンや支援機関からの相談にも対応した。(あしたば幼児訓練会や港南地域療育センターとの周知連携、栄区社会福祉協議会から経済支援の取り組みについて情報収集、サロンからの周知方法相談や運営相談等)
- ・拠点から遠い地区での子育てサロン開設について、その地域の支援者と連携して協力を行い、出張ひろばや出張相談会を定期的に行って、乳幼児親子からのニーズを区と共有し、令和6年度から育児教室が行われるようになった。  
(長尾台地区…令和5年度から連携開始、打ち合わせで訪問し、出張ひろば2回、公園遊び1回、出張相談会1回実施、令和6年度から毎月育児教室が開催となった)
- 令和6年度からも、別の地区(上郷矢沢コミュニティハウス、連合犬山会館)でのサロン開設に向けて協力予定。

## 評価の理由(区)

### ①【拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている】

- ・子育てパートナーが区民と繋がれる場として、両親教室や母子訪問、地域育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会等に参加できるよう調整している。拠点に来館しづらい遠方在住の養育者に対しては、電話相談も可能なことを周知している。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問で全数に子育てパートナーのチラシを配布し周知に努めている。
- ・母子手帳交付の際にマイカレンダーに拠点の連絡先を掲載し、子育てパートナーの周知をしている。

### ②【相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている】

- ・拠点の定例会では、事例検討を毎回実施している。
- ・養育者の了解を得て、区の支援が必要だと思われる養育者について子育てパートナーから連絡が入った際は、速やかに区から養育者に連絡するように努めた。区の事業や相談、地域の社会資源について案内している。

### ③【子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている】

- ・子育て支援者定例会や地域育児教室に参加できるよう調整し、各地域の養育者や子どもの様子について共有できる場を提供した。子育てパートナー発信の情報を活かし、新たな区の事業展開につながった。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果)

- ・和室でゆっくり相談等、養育者の気持ちを丁寧に聴く機会を設け、相談しやすい工夫を行った。
- ・子どもの発達が気になる養育者に向けて、ひろば作りやプログラムを企画し、実施した。  
(作業療法士と連携した少人数のプログラム、のびしろクラブ、療育センターとの連携で講座開催)
- ・拠点から遠い地域に住んでいる養育者でも気軽に相談できる機会を作った。(助産師と共にオンライン相談、長尾台地域での出張相談会)
- ・新たなネットワーク作りに積極的に取り組んだ。  
(桂山公園こどもログハウス「ロッキー」:定期的な出張ひろば開催、長尾台町内会館:乳幼児向けの居場所作り)  
今後も上郷地域での乳幼児向けサロン開設に協力する取り組みを実施予定。

### (課題)

- ・新システムからの相談予約は少ないが、連絡先としてメールは活用されているので引き続き、対面・電話・相談室・オンライン等で相談ができることを周知していく。

## 様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。  
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。